

2018.9
(公社)富山県薬剤師会
広報誌

とみや 富薬

9号

第40巻
No.350



カワラヨモギ *Artemisia capillaris* Thunb. (キク科 *Compositae*)

生薬 インチンコウ（茵陳蒿） 秋、開花後しばらくして花穂のみを刈り取り、速やかに乾燥する。香りの強いものが良品。

成分 精油：capillarin, capillin, capillene, nor capillene, capillone、クマリン類：scoparone, esculetin、フラボノイド：cirsianrol, cirsimaritin、クロモン類：capillarisin, capilartemisinA, B等。

効能 消炎性利尿、利胆薬として解熱、肝炎予防、黄疸、胆道疾患、胆嚢炎などを目的に漢方処方に配合される。



生薬 インチンコウ

元富山県薬事研究所
薬用植物指導センター

村上守一氏 写真撮影

〇〇表紙について〇〇



属学名の *Artemisia* (ヨモギ属) はギリシア神話の女神アルテミス (Artemis) が多産をもたらし、分娩の苦痛や一切の婦人病を和らげる、婦人の守護神であることから名付けられました。ヨモギの仲間には世界に約250-400種、主に北半球の暖帯から寒帯に分布、日本にも約30種ほどが自生します。花が大きく発達した虫媒花のキク属が乾燥した砂漠地帯や草原、岩場など虫の少ない地域に進出し、風媒花になったグループと考えられています。人とのかわりも深く、ヨーロッパでもワームウッド (ニガヨモギ *A. absinthium* アブサンの香りづけ、健胃薬) やマグワート (オウシュウヨモギ *A. vulgaris* 肉料理、去痰)、タラゴン (*A. dracunculus* var. *sativa* 香りづけ、食欲増進)、ミブヨモギ (*A. maritima* 駆虫薬) など食用や薬用として用いられています。日本にも約30種ほどが自生し、ヨモギ (*A. princeps*) は食用、薬用、もぐさ原料、虫送りなど利用価値の高い植物です。

カワラヨモギは本州、四国、九州、朝鮮、中国全土、台湾、フィリピンなど主に東アジアに広く分布する半灌木性の多年草で、河原や海岸など開けた場所を好み生育するところから命名されました。草丈30-100cm、はじめ根もとから出る葉は2-3回羽状に全裂し、小裂片は糸状で細く、白い絹毛に覆われ灰白色です。夏、花茎があがる頃には枯れます。中国ではこの根出葉を収穫し乾燥したものを綿茵陳と言ひ、正品として取り扱っています。花茎につく葉も2-3回羽状に全裂し無毛で緑色、小裂片は根茎葉より細い糸状で、まるで別の植物と思われるほどです。この毛状の細い葉が種小名 *capillaris* (細毛状の) の語源です。夏から秋にかけて咲く頭花は、大型の円錐花序に多数つけ、小花は1.5-2mmの球形に管状花が集まり、周辺部は雌性花で子房が発達し、中央部は両性花ですが子房が退化している花です。そう果は倒卵形で0.8mm程です。

中国における歴史は古く、『神農本草経』の上品に収載され、「本草拾遺」(739)には「この草は蒿類ではあるが、冬を経て枯れず、更に舊(ふるい)苗に因って生ずるものだ。故に因陳(ふるい)と名ける」と語原の説明と根生葉が冬も枯れないことを説明しています。陶弘景(456-536)は「今は諸処にある。蓬蒿に似て葉は緊って細く、秋後に茎は枯れるが冬を経て枯れず、春になるとまた生える」と言ひ、蘇頌(1020-1101)は「近道いづれにもあるが、太山のもの佳きには及ばない。春初に苗が生えて高さ三五寸になる。蓬蒿に似て葉は緊って細く、花、実は無い。五月、七月に茎、葉を取って陰乾する。今はこれを山茵陳と言ひている。江寧府(江蘇省江寧県)の一種の茵陳は、葉大きく、根粗くして黄白色だ。」とカワラヨモギ以外に原植物は多種あったことを記し、『大観本草』(1108)の「絳州茵陳蒿」の図は葉が線描されているほど細く、カワラヨモギに似ていますが、もう一つの「江寧府茵陳」の図は葉が大きく別種と考えられます。

我が国における記録は『本草和名』(918)に「和名比岐与毛岐」とあり、『倭名類聚抄』(931)には「和名比岐与毛木」、『延喜式』(927)の典薬寮、諸国進年料雑薬には「尾張国 六斤、相模国 十斤五両、近江国 六斤、讃岐国 十斤」の計三十一斤五両が献納されていたことが記されています。江戸初期の本草書『多識編』(1612)には「加和良与毛岐」とあり、現在の植物名と同一の名になっています。『大和本草』(1709)には「川原にあり、故カハラヨモギと云。冬春の嫩葉は表裏白して、艾のうらの色のことし。葉大也。香あり。老葉は表裏青く青蒿の如くして、色白からず。香うすし。秋間葉細にして杉の如し。老葉と嫩葉とのかたちかわる。又時節により地の肥瘠によりて葉の形かわる。青蒿より細葉なるもあり。冬を経て茎葉凋まず。宿根枯れず。青蒿と異なれり」とあり、ほぼカワラヨモギを指していると判断できます。

(村上守一 記)